

平成2年度 和歌山県名匠

【桐^{きり}箆^{たん}筥^す製^{せい}作^{さく}】

上^{うえ}中^{なか}喜^き代^よ司^し

【現住所】和歌山市

【生年】昭和8年

業績及び経歴

14歳で和歌山市の谷口木工に箆筥造りの見習いに入り、修業をつんだ後、昭和29年、20歳という異例の若さで独立した。

以来、江戸時代後期に始まったとされる紀州桐箆筥の伝統技法を継承、発展させてきた。

一般的に桐箆筥は、防虫性、防湿性、防火性に優れているといわれているが、特に氏の作品は、繊細な仕口と仕上げに特徴があり、優れたデザイン感覚に裏付けされて、高い品格を有している。

昭和62年度全国優良家具展大阪大会に出品した総桐箆筥が通産大臣賞に輝くなど、多数の賞を受賞している。

昭和62年に、和歌山市の紀州箆筥が国から伝統的工芸品産業の指定(「伝統的工芸品産業振興法」に基づく。)を受けたが、これは産地指定に傾けた氏の情熱のたまものといえる。

現在は、産地の後継者育成にも力をそそいでいる。

昭和60年から紀州桐箆筥協同組合理事長を務めている。

平成元年度に伝統工芸士の称号(伝統的工芸品産業振興協会)を受けるとともに、県政功勞を受けている。